



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ロイヤルホテル
 コード番号 9713 URL <http://www.rihga.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 財務企画部長
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 川崎 亨
 (氏名) 坊傳 康真

TEL 06-6448-1121

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	20,519	△2.9	△368	—	△538	—	△572	—
26年3月期第2四半期	21,132	1.8	△10	—	△220	—	△241	—

(注)包括利益 27年3月期第2四半期 △469百万円 (—%) 26年3月期第2四半期 △228百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	△5.59	—
26年3月期第2四半期	△2.36	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	48,993	8,239	16.8
26年3月期	51,245	7,917	15.5

(参考)自己資本 27年3月期第2四半期 8,239百万円 26年3月期 7,917百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式(非上場)の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,000	△0.8	1,200	4.0	800	5.0	630	12.1	6.15

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期2Q	102,716,515 株	26年3月期	102,716,515 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

27年3月期2Q	262,371 株	26年3月期	259,541 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期2Q	102,455,713 株	26年3月期2Q	102,461,869 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビューは終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループで判断したものです。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る 1 株当たり配当金の内訳は以下のとおりであります。

A 種優先株式	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年 3 月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年 3 月期	—	0.00			
27年 3 月期(予想)			—	0.00	0.00

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
4. 補足情報	9
生産、受注及び販売の状況	9
決算発表 補足資料(個別業績)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和の効果もあり、企業収益は緩やかな回復基調にあるものの、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動、今夏の天候不順や原材料価格の高騰など、依然として不透明な状況が続きました。

ホテル業界におきましては、円安の影響もあり、年間訪日外国人が1,000万人を超えた平成25年を上回るペースで推移していることなどから宿泊需要は増加傾向にあります。一方、法人需要の回復に遅れが見られるほか、婚礼・飲食施設との競争も激しく、経営環境は依然厳しい状況が続いております。

こうした環境下、当社はグループホテル全体で好調な宿泊需要を最大限取り込む体制を強化したほか、売上増強を図るべく新たなダイニングスペース・ウェディングゾーンのオープンや新たな商品開発を進めてまいりました。

リーガロイヤルホテル(大阪)では、7月に「All Day Dining REMONE(リモネ)」内の一部スペースを改装し、多彩なシーンで利用可能なダイニングスペース「ラ・ロンド」としてリニューアルオープンいたしました。今回の改装により席数は283席から315席に増加し、ホテル内レストランでは関西最大級の席数となりました。また、8月には結婚披露宴会場「桐の間」を中心とした空間一帯をオリエンタルテイストの新たなブライダルゾーンとしてリニューアルオープンしました。ヨーロピアンクラシック調の「ザ・クリスタルウイング」や、フレンチモダン調の「クラウンルーム」と全く印象の異なるテイストが特徴で、多様化するお客様のニーズに対応できる体制を強化いたしました。

リーガロイヤルホテル京都では、結婚披露宴会場「ラ シゴニーユ」を上品で和モダンなコーディネートが映える会場にリニューアルいたしました。

また、来年1月の創業80周年、平成29年夏の中之島3丁目新ホテル開業に向け、お客様にご満足いただける商品・サービスの追求や、高い品質と効率性を両立させた体制構築など、将来も見据えた収益力向上・社内基盤強化に努めてまいりました。9月には、創業80周年記念商品として、記念宿泊プランや記念クリスマス商品を発表するなど様々なホテルの楽しみ方を提案してまいりました。

このように、様々な施策を進めましたが、当第2四半期連結累計期間の売上高は、20,519百万円と前年同期比612百万円(2.9%)の減収となりました。

損益面では、営業損失368百万円(前年同四半期連結累計期間は営業損失10百万円)、経常損失538百万円(前年同四半期連結累計期間は経常損失220百万円)、四半期純損失572百万円(前年同四半期連結累計期間は四半期純損失241百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末に比べ2,252百万円減少し48,993百万円となりました。

内訳では流動資産が同1,334百万円減少し4,979百万円となりました。これは現金及び預金が1,001百万円減少したこと等によります。固定資産は同917百万円減少し44,013百万円となりました。これは有形固定資産が970百万円減少したこと等によります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ2,573百万円減少し40,753百万円となりました。これは借入金が1,198百万円及び退職給付に係る負債が945百万円減少したこと等によります。

純資産は前連結会計年度末に比べ321百万円増加し8,239百万円となりました。これは四半期純損失を572百万円計上したものの、退職給付会計基準の改正に伴い、退職給付見込額の期間帰属方法や割引率を見直したため、利益剰余金が792百万円増加したこと等によります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期の業績予想に関しましては、平成26年11月6日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」から変更はありません。なお、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更ならびに割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が792百万円減少し、利益剰余金が792百万円増加しております。また、当第2四半期連結累計期間の営業損益、経常損益及び税金等調整前四半期純損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,825	1,824
売掛金	2,438	2,193
原材料及び貯蔵品	383	372
その他	667	590
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	6,314	4,979
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	82,779	82,889
減価償却累計額	△60,975	△62,049
建物及び構築物(純額)	21,803	20,840
土地	5,214	5,214
リース資産	3,110	3,209
減価償却累計額	△825	△971
リース資産(純額)	2,284	2,237
その他	6,879	6,907
減価償却累計額	△5,653	△5,642
その他(純額)	1,225	1,264
有形固定資産合計	30,528	29,557
無形固定資産		
リース資産	334	503
その他	83	80
無形固定資産合計	418	583
投資その他の資産		
差入保証金	13,217	13,156
その他	820	770
貸倒引当金	△54	△54
投資その他の資産合計	13,984	13,872
固定資産合計	44,931	44,013
資産合計	51,245	48,993

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,404	1,107
短期借入金	3,994	4,219
賞与引当金	234	242
その他	3,933	3,763
流動負債合計	9,567	9,333
固定負債		
長期借入金	15,961	14,538
退職給付に係る負債	6,804	5,858
商品券回収損引当金	157	158
資産除去債務	2,347	2,360
その他	8,489	8,504
固定負債合計	33,760	31,420
負債合計	43,327	40,753
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,102	18,102
資本剰余金	14,980	14,980
利益剰余金	△26,849	△26,629
自己株式	△53	△54
株主資本合計	6,178	6,398
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19	13
土地再評価差額金	2,573	2,573
退職給付に係る調整累計額	△853	△745
その他の包括利益累計額合計	1,739	1,841
純資産合計	7,917	8,239
負債純資産合計	51,245	48,993

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	21,132	20,519
売上原価	5,419	5,107
売上総利益	15,713	15,412
販売費及び一般管理費		
水道光熱費	1,390	1,441
人件費	7,074	7,213
諸経費	7,258	7,125
販売費及び一般管理費合計	15,723	15,780
営業損失(△)	△10	△368
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	1	2
債務勘定整理益	7	7
その他	21	19
営業外収益合計	33	31
営業外費用		
支払利息	227	186
その他	16	14
営業外費用合計	243	200
経常損失(△)	△220	△538
特別損失		
固定資産除却損	20	33
リース解約損	-	14
特別損失合計	20	47
税金等調整前四半期純損失(△)	△240	△585
法人税、住民税及び事業税	41	26
法人税等調整額	△40	△40
法人税等合計	0	△13
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△241	△572
四半期純損失(△)	△241	△572

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△241	△572
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13	△5
退職給付に係る調整額	-	108
その他の包括利益合計	13	102
四半期包括利益	△228	△469
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△228	△469
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

4. 補足情報

生産、受注及び販売の状況
部門別売上実績

部門	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	
	金額 (百万円)	前年同期比 (%)
客室	4,869	4.3
宴会	7,297	△6.4
食堂	4,653	△4.3
その他	3,699	△2.8
合計	20,519	△2.9

(注) 受注生産は行っておりません。

決算発表 補足資料 (個別業績)

部門別売上

(単位 金額：百万円、構成比：%、増減比：%)

部 門	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)		前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)		比 較	
	金 額	構成比	金 額	構成比	増減	増減率
リーガロイヤルホテル(大阪)						
客 室	1,833	12.8	1,726	11.8	106	6.2
宴 会	3,489	24.4	3,770	25.8	△ 281	△ 7.5
食 堂	2,287	16.0	2,311	15.8	△ 24	△ 1.0
そ の 他	2,300	16.0	2,357	16.1	△ 57	△ 2.4
計	9,910	69.2	10,166	69.5	△ 255	△ 2.5
リーガロイヤルホテル京都	2,711	18.9	2,797	19.1	△ 86	△ 3.1
リーガロイヤルホテル東京	1,696	11.9	1,668	11.4	28	1.7
合 計	14,317	100.0	14,632	100.0	△ 314	△ 2.1

※ 上記個別業績数値については、監査法人による四半期レビューの対象ではありません。